

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



朝令暮改でもいいじゃない

北海道池田町ブドウ・ブドウ酒研究所（十勝ワイン）営業課営業係 主査 今井 秀敏

Covid-19 中での海外生活

「2020年に改修された観光施設（いけだワイン城）への東南アジアからのインバウンドを増やす」。派遣元から受けた特命は、帰国後も Covid-19 によってまだ実現できていません。しかし、この激動の時期にシンガポールにいたからこそ体感できた貴重な経験がありました。

Covid-19 発生以前にも、シンガポール政府が、推奨していた電動スクーターを事故が多発すると急に使用禁止にしたり（私は購入後半年で廃棄する羽目に…）、観光名所だった巨大マーライオン像を突然取り壊したりする迅速な対応に驚き、感心していましたが、Covid-19 対策でも猫の目のように方針が変わりました。

政府は発生当初、熱・せきのある人だけマスクをするよう強く促していましたが、首相が「マスクは無症状感染者による拡散防止に効果がある」と演説した後は、マスク無しでスーパーに入店できなくなり、数日後にはマスクを着けなければ罰金となるなど、あっという間にマスクへの規則が強化されました。

完璧な内容に仕上げたから政策を決めがちな日本は、目まぐるしく変化する世界情勢の中で、Covid-19 対策に限らず、いざ政策が決まったときには時機を逸している危険性が高く、ひいては日本の存在感がどんどん希薄になるのではないかと危惧しています。すぐ撤回された日本着の国際線の新規予約停止要請のように、日本の行政文化にも失敗を恐れず、朝令暮改でも良いので、まずは政策を打ってみる精神が根付くことを願っています。

また、法律や規則で細かく行動が規制される背景には、多民族国家のシンガポールでは「相手と分かり合えなくて当たり前」という前提があります。実際、日曜日に1カ所に大勢が集まり仲間との会話を楽しむインド系やフィリピン系の方々が、Covid-19 が拡大し、政府が再三

警告した後も集まりを止めない様子を、私は驚きを持って見ていました。ただ、日本人の間でも同じように、特に世代間で価値観の違いが発生しているかも知れませんね。

ほかにも、感染者が急拡大した時期に歯医者への通院すら制限され、公園を散歩していてもパトロールの方に職務質問され、日用品の買物すらビクビクしながら行動した経験や、持ち歌が3000曲あるほどカラオケが大好きなのにもかかわらず、政府は再開を許可できる時期が不透明であるとして廃業を推奨したため、帰国するまで歌うことができなかったことも今では良い思い出です。

北海道を強みに

私は帰国後、町営企業である「十勝ワイン」の営業職に配属されました。日本の一地域にすぎない“北海道”ブランドですが、シンガポールのみならず、東南アジア諸国では大変な訴求力があります。2021年11月末から12月にかけて、シンガポールにある北海道のアンテナショップで十勝ワインフェアを実施し、シンガポール滞在中に面識を持ったレストランオーナーからは十勝ワインの引き合いをいただいています。今後も派遣で得た知識と人脈を池田町のインバウンド推進と十勝ワインの海外展開に活かしていきたいと思っています。



シンガポール国立大学でJET事業と日本観光をPRする筆者

プロフィール・ほか

- 現在の業務内容：
十勝ワインの営業、輸出などの海外展開
- フレア時代の所属：
2018年4月～2019年3月 クレア東京本部経済交流課主査
2019年4月～2021年3月 クレアシンガポール事務所 所長補佐